



えい けい
叡啓大学
EIKEI UNIVERSITY OF HIROSHIMA

ソーシャルシステムデザイン学部
ソーシャルシステムデザイン学科

未来を啓く学びが、 ここにある。

睿啓大学

未来を形に

変化の予兆はありながら先行きの見えない社会。

人々の求めるものの主体は形のあるものから形のないものへと変化し、

人の往来が制限される中でグローバルな関係も新しい形で進む。

私達の日常生活を支えてきた様々な基盤が変わりつつある社会。

そんな社会の未来を描く力が求められています。

木から林、林から森と、社会を全体的にとらえる視野を養い、

SDGsの目標を誰一人取り残すことなく実現する新しい社会では社会的価値を通じて経済的価値を実現する。

学問はそれ自体を探求するものとしてではなく、社会を全体的にとらえるための手段として学び、

社会的・経済的価値を作り出すために不可欠な技能を身につけ、獲得した知識と技能を実際場で検証する。

睿啓大学ではそういう学びの場を提供したいと考えています。

将来の社会や人々の生活のあるべき姿、未来を形にすると、現実との落差が見えてきます。

この落差が課題となり、課題に対応するためには様々な問題に向き合う必要があります。

問題を解決した先に未来があります。

目先の問題に目を奪われることなく真の課題に対応できる力、これを私達はコンピテンシーと呼びます。

先行きの見えない中で、未来を形にし、新しい社会を実現していくコンピテンシーを身につけることができる

可能性を秘めた若者を私達は求めています。



学長 有信 睦弘 ARINOBU Mutsuhiro

Profile

1976年東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻博士課程修了(工学博士)。東京芝浦電気株式会社(現・株式会社東芝)研究開発センター所長、執行役常務などを経て、2009年に横浜国立大学理事、10年に東京大学監事、14年に理化学研究所理事。18年4月から東京大学執行役・副学長(2021年3月まで)。文部科学省中央教育審議会委員、同大学院部会会長、同大学分科会将来構想部会委員を歴任、日本技術者教育認定機構(JABEE)顧問などを務める。

ソーシャルシステムデザイン学部／ソーシャルシステムデザイン学科 2021年4月開学

育成を目指す人材像

先行きが不透明な社会経済情勢の中で、地域社会や世界に貢献する高い志を持ち、解のない課題に果敢にチャレンジし、粘り強く新しい時代を切り開いていく人材

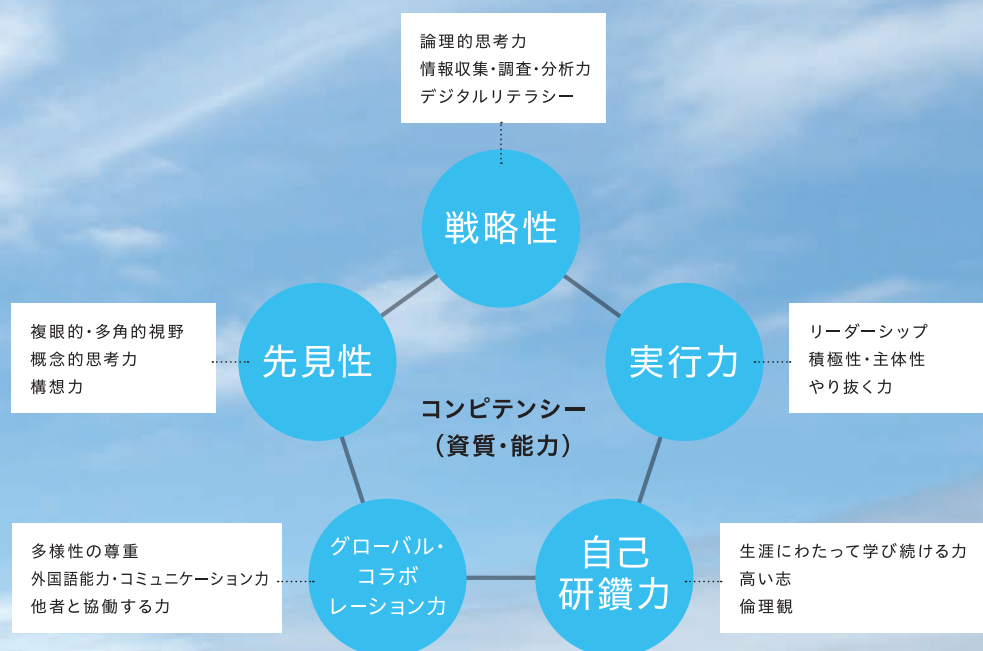
本学の教育

個人や個別企業などの利益や成長だけではなく、社会全体としての価値の創造を目指し、持続可能な開発目標（SDGs）を念頭に、経済・社会・環境を巡る様々な課題に対して、経済的価値と社会的価値を同時達成できるような統合的な解決策を立案できる力を育成します。そのために、本質的な課題を発見できる「先見性」、解決策を立案できる「戦略性」、自らリーダーとしてやり抜く「実行力」、高い志を持ち学び続ける「自己研鑽力」、多様性を尊重し他者と協働する「グローバル・コラボレーション力」の修得を目指します。

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与方針)

本学の目指す人材育成を実現するため、次のコンピテンシー（資質・能力）を身に付けたと認められる者に学位を授与します。

先見性	幅広い教養を基盤とする複眼的・多角的な視野を養い、グローバルな視点から将来を見通し、概念的思考力などを用いて、社会の変化がもたらす本質的な課題を発見する力
戦略性	デジタルリテラシーを基盤に、探究心を持って新しい情報や知識の収集・調査・分析を行い、論理的思考力などを用いて、統合的な解決策を戦略的に立案する力
グローバル・コラボレーション力	個人や社会の多様性を尊重し、外国語能力やコミュニケーション力を駆使して、異なる文化・価値観などを有する他者とも相互に信頼関係を構築し、協働する力
実行力	リーダーシップを持って何事にも主体的・積極的にチャレンジし、困難に直面してもあきらめずに最後までやり抜くことを通じて、物事を実行する力
自己研鑽力	高い志と倫理観を持ち、生涯にわたって学び続ける姿勢を通じて、自己を高める力



ソーシャルシステムデザイン学部

「いまある社会を知る」よりも

「これから社会を前向きに変える」を学びたい。

ソーシャルシステムデザイン学部は、そんな熱い想いを持つ人に応える学びと実践の場です。

ソーシャルシステムデザイン学は、社会で問いを設定し、解答を自ら探求するための方法論です。ソーシャルとは「社会」、チーム、クラス、おしゃべりの輪、会社や国際機関のように、人々が目的と意図を持って創り出す仕組みのこと。システムとは「つながり」、布と糸と針から着物が紡ぎ出されるように、人や人が創り出したモノやコトを新しい「プラス」のために結ぶこと。デザインとは、日記に書く絵入りの未来予想図のように、「夢を現実にできるように具体的に描くこと」。社会にあふれる「問い」を見つけ出し、じぶんごととして「答え」を提案する。だから、「社会×つながり×夢の実行図=行動する科学」なのです。世の中の幸福の向上が目的です。

ソーシャルシステムデザイン学は、ここ数十年間で確立された新しい科学の体系でもあります。その学問的基礎は、持続可能な開発目標（SDGs）を意識したリベラルアーツ（知の総合諸科目）を根底に、システム思考とデザイン思考で組み立てられています。つまりは「木を見て森も見る」思考と「社会課題に対して前向きに解を協働で提案する」思考です。日本で初めての学部が2021年ようやく、世界平和希求の源泉地でありイノベーションの厚い伝統がある広島を中心に誕生しました。

叡啓大学は「人と社会を前向きに変える人財（チェンジ・メーカー）を育てる」22世紀型大学です。

教職員も学生も、応援してくださる大学関係者や地域のみなさま、そしてすべてのステークホルダーの方々が熱い想いと優れた知見を持って、素晴らしい行動を起こしておられます。

その行動の舞台は国際（グローバル）×地域（ローカル）のグローカル。広島から地域へ・世界へ、地域と世界から広島に、学びと実践のベクトルは直接行き来します。入学者は卒業までに、社会を変える「実践力」と社会を生き抜く「国際教養力」を、能動型学修（アクティブ・ラーニング）で体系立てて体得します。広島の街全体がキャンパスの大学ビルと徒歩0分の国際学生寮は、そのためのプラットフォームの両輪です。

時代を先駆ける風になる。そのために地にどっしりと足をつけ、知の緑を粘り強く芽吹かせる。ともに行動していきましょう。



学部長・教授 保井俊之 YASUI Toshiyuki 博士(学術)

Profile

1985年東京大学卒、財務省および金融庁など、パリ、ニューデリー並びにワシントンDCの国際機関や在外公館などに勤務したのち、地域経済活性化支援機構常務取締役、国際開発金融機関IDBの日本ほか5か国代表理事などを歴任。慶應義塾大学大学院で2008年から教壇に立つ。2011年国際基督教大学から博士号。米国PMI認定Project Management Professional。日本創造学会評議員、地域活性化学会理事。

ソーシャルシステムデザイン学科

EIKEI UNIVERSITY OF HIROSHIMA

学部の理念

本学部は、「自らが将来のありうべき*社会像を創ること」、そのために、「自らが課題を発見し、解決策を立案し、他者と協働しながら、リーダーシップを発揮し、実行することを通じて、新たな社会価値を生み出すこと」を理念としています。

※「あってもよさそうな」「あつてよい」という意味で、「あるべき」ではありません。

学びの概要

本学の学生は、英語コミュニケーション能力とデジタルスキル、論理的思考力、デザイン思考・システム思考の方法論を身に付け、リベラルアーツ科目*の履修と、実社会の課題解決に取り組む課題解決演習、ボランティアやインターンシップなど海外を含む体験・実践プログラムを通じた実践的な教育を経験します。それらを通じて、自ら解決すべき課題を設定し、解決策の提案を行う卒業プロジェクトにおいて知識・能力の統合を図ります。

※中心となる主な学問領域は、文学関係(芸術・文学、哲学・倫理学、心理学、文化人類学など)、経済学関係(経営学など)、理学関係のうち環境学

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

知識・スキルの「修得」と「実践」で構成するカリキュラム体系

本学の教育課程では、学生は、ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)で定められたコンピテンシー(資質・能力)を身に付けられるよう、「リベラルアーツ科目」や「基本ツール科目」、「実践英語」による知識・スキルの「修得」と、「課題解決演習」や「体験・実践プログラム」による「実践」を往復したうえで、「卒業プロジェクト」に取り組みます。自分の課題意識や学修状況に応じた履修を重ねることで、コンピテンシーの獲得と学位の取得を目指します。

ウィンドウの設定による学修

リベラルアーツ科目では、実社会における課題に対して、国際社会全体の持続可能な開発目標として設定されているSDGsの17のゴールを念頭に置きながら、複眼的かつ多角的で、グローバルな視点から将来を見通すことのできる力を養います。学生は各自の興味関心に応じて、課題を見る際の視点となる「ウィンドウ」を選択します。各ウィンドウのテーマに有用な知識を修得できるよう、カリキュラムが構成されています。

実践的なグローバル・コラボレーションカの育成

本学の学生は、実践的な英語カリキュラムや日英2言語での授業履修、海外留学や海外プログラムなどを通して、グローバルに活躍し、多様な人々と協働できるコミュニケーション力を身につけます。また本学は海外から積極的に留学生を受け入れます。留学生と日本人学生はともに学び、切磋琢磨することにより、多様性を尊重し、異なる価値観などを有する他者とも相互に信頼関係を構築し、協働する力を身につけます。

実社会の多様な主体と連携した実践的な教育の導入

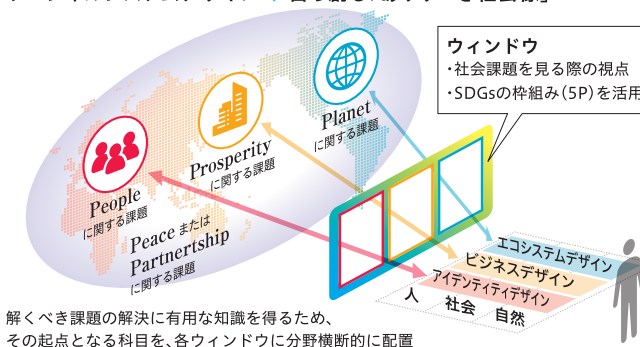
本学は、実社会で生じている課題を教育に積極的に取り入れていくことができるよう、企業やNPO、国際機関、地方公共団体など学外の様々な主体と恒常的に連携を行うプラットフォームを構築します。企業などの多様な主体と連携した実践的な課題解決演習を行うことにより、本質的な課題を発見する力、統合的な解決策を戦略的に立案する力や、最後までやり抜く実行力を養います。また、インターンシップやボランティア活動など海外を含む実社会をフィールドとした体験・実践プログラムを展開し、多様性を尊重して協働する力や実行力を養います。

カリキュラムの全体構造

知識・スキルの「修得」	国内・海外での「実践」
<ul style="list-style-type: none">■リベラルアーツ科目■基本ツール科目<ul style="list-style-type: none">●ICT・データサイエンス●思考系■実践英語	<ul style="list-style-type: none">■課題解決演習(PBL)■体験・実践プログラム<ul style="list-style-type: none">●国内プログラム●海外プログラム
卒業プロジェクト	

「ウィンドウ」のイメージ

ソーシャルシステムデザイン → 自ら創る「ありうべき社会像」



教員紹介

BURROWS Christian 准教授 (Teaching English as a Foreign/Second Language) (英語)

Master of Arts

The Intensive English Program (IEP) offers students to develop a practical ability in all 4 language skills. This is intended as a platform to be able to take part in lectures and seminar conducted in English. It offers an opportunity for students to build on the knowledge and ability acquired up to high school. If you are motivated to improve your language ability, come and join our student-centered program.



Profile

His research field is the teaching of communication strategies to improve speaking ability.

石川 雅紀 特任教授 ISHIKAWA Masanobu

工学博士 (環境経済学)

私は環境をテーマに工学博士を取得、食品工学(容器包装リサイクル)を研究し、2003年からは神戸大学で環境経済学を教育・研究してきました。神戸大学では学生を中心としたNPOごみじゃぱんを創出し、容器包装が自然に減る社会システムデザインに取り組みました。この活動で学生が企業、行政、市民団体などと連携して、社会が実際に動いていくことを体験しました。叡啓大学でもこの経験を活かして、プラスチックごみ問題、食品ロス問題を学生と一緒に解決したいと思います。



Profile

神戸大学経済学研究科教授、NPO法人ごみじゃぱん代表。

KASPAREK Nick 講師

MED in TESOL (英語)

Let's share the joy of exploring new interests and playing with new ideas together. The university is a special place for study, where we can ask better questions and refuse easy answers. In my English language courses, we critically discuss contemporary issues and longstanding philosophical problems to explore different perspectives. We aim to use English to expand each other's imaginations and to participate in intelligent discussions globally.



Profile

An IEP lecturer from the USA who has taught at ICU, Rikkyo University, and Tokyo University of Foreign Studies.

粥川 準二 准教授 KAYUKAWA Junji

博士(社会学) (社会学)

2020年春以来、世界は新型コロナウイルス感染症に悩まされています。その過程で、パンデミック以前から存在していた「社会問題」も浮き彫りになっています。そして今後、ワクチンが普及しウイルスが消えても、この社会は、決してコロナ以前と同じではいられないでしょう。私が専門とする社会学は、社会の変化を捉えつつ、社会問題に取り組むための学問です。叡啓大学では、“ウィズ・コロナ”、そして“アフター・コロナ”の社会問題に取り組むチカラを育てていきます。



Profile

愛知県出身。フリーランスのサイエンスライターなどを経て現職。

LEE Chui Ying 講師

博士(学術) (開発経済学)

With "SDGs" become a term that we could easily come across in our daily lives, sustainable development became a "strangely familiar" topic. However, how much did each of us genuinely engage and contributing to it? Throughout the years, dozens of stakeholders tried to transfer experiences from the developed to the developing world, yet, when it comes to putting them into actions, different reaction blasts and some struggles vigorously. Why is it so hard to design and put things right? There it comes, the importance of evidence-based policymaking and causality. To extract the underneath causal and develop the right policy for the developing world, let's take a deep dive into development economics fields and continuously learning more from the frontiers researchers approaches.



Profile

A multilingual Malaysian and development economic scholar.

小野 浩二 准教授 ONO Koji

Master of Science (Management Science) (ファイナンス)

FCO Scholarshipsを授与され、Imperial College, University of London留学。MSc, DIC両学位取得。銀行本部、政府系法人研究部長、国際会議議長を通じ、証券化等金融技術の高度化に成果を上げる。現在は、金融数理技術を活用し、公的資金ではなく高齢者自身の財産を活用した長寿リスクへの解決策である終身保障信託を提言。FP1級、英検1級、宅建ほか10余の実務資格を保有。国の修学支援新制度に基づく実務教員として確認済み。12年間の大学教授としての教育研究と併せ、皆様の学びに活かしていきます。



Profile

上級甲種国家公務員、政府系法人研究部長、大学教授、日本証券アナリスト協会検定会員。

PETKOVA Galia 教授

PhD in Japanese studies (文学)

University years can be the best time of your life. It's entirely up to you what you make of it. You will make friends for life; you will grow intellectually and emotionally. How much you learn depends on you. Your teachers are here to help you and to stimulate you to learn, not to force you. Be curious - everything is interesting if you pay close enough attention. Use these four years well and you will gain both solid knowledge and confidence. But, most of all, learn to think critically, to analyse and understand human behaviour and society - this is the purpose of a university education. And spend time studying abroad. For me, this was my most constructive experience.



Profile

Specialising in Japanese and Asian traditional performing arts, cross-cultural studies, and gender studies.

下ヶ橋 雅樹 教授 SAGEHASHI Masaki

博士(工学) (環境学)

私たちの暮らす環境をコンピュータで表す、環境シミュレーションの研究に取り組んでいます。環境は、人々の生活の基盤です。社会をより快適で安全・安心なものにするためには、良好な環境が維持されなければなりません。そのためにはまず、環境とは何かを理解することが重要です。叡啓大学と一緒に、シミュレーションを駆使して環境と人間活動の関係を紐解き、私たちの活動が環境をどう変えていくのか、また、よりよい環境のためには何をすべきかを議論していきましょう!



Profile

企業や大学、国の機関での研究、国際機関への派遣、JICA専門家などを経験。

瀬古 素子 講師 SEKO Motoko Master of Science in Women's Studies (国際協力・ジェンダー)

世界的なパンデミックに直面し、私たちは「地球規模の課題を解決するには国際協力が不可欠である」ということを再認識すると同時に、その対極にある国際移動制限や自国第一主義の台頭も目撃しました。ポストコロナの世界ではどのような協力・協働のあり方や手法が求められ、国際社会の一員として私たちは何をすべきか、国際協力や開発援助の形も大きく変化しています。これからの世界のリアルな課題に対し、新しい解や価値を創造していく力が持てるよう、ともに学び・行動しましょう。



Profile
国際公務員、JICA専門家として4大陸9か国の勤務を経て現職。

早田 吉伸 教授 SODA Yoshinobu 博士(システムデザイン・マネジメント学) (地域活性化/経営学)

環境変化が激しく、大きな価値転換が起きている現在。私たちは、これまでのやり方では解決できない問題に直面しています。これは、一見ピンチのようにも見えますが、既得権益に縛られていない人にとっては大きなチャンスです。このチャンスを活かすためには、<ソーシャルシステムデザイン>の考え方が重要です。また、それを学び、実践していくことが不可欠です。本学では、そのためのプログラムとプラットフォームを準備しています。ぜひ一緒に未来をデザインしていきましょう!



Profile
IT企業・政府での実務を経て現職。地域活性化伝道師(内閣府認定)。

田口 陽子 准教授 TAGUCHI Yoko 博士(社会学) (文化人類学)

大学は社会の一部でありながら、社会から少し離れて学問に打ち込める特別な場所です。例えば、文化人類学という学問では、私たちが当たり前だと思っていることが、時代や場所や制度によって驚くほどに多様であることを学びます。違うあり方が可能ならば、自分たちには変えられないように見える物事でも、細部をいじってみることで少しずつ変えられるかもしれません。学内外での学びを通して、違う角度から物事を見たり、じっくり考えたり、新しいアイデアを試していきたいと思います。



Profile
人類学者。現在はインドのケア労働と人間関係について研究中。

土本 康生 准教授 TSUCHIMOTO Yasuo 博士(政策・メディア) (ICT)

あなたはコンピュータを自由に使えますか? 僕はコンピュータが使える人と使えない人の違いはチャレンジ精神の有無にあると思っています。コンピュータを使って実現したいことの多くは検索で明らかにできます。つまり、自分で検索して見つけたことを試すかどうか、どんな経験をしたかが大きな差になるのです。コンピュータというのは、物理的に破壊しない限り、使えなくなることはありません。観啓大学を目指す人には、このコンピュータを使っていろんな挑戦をして欲しいと思っています。



Profile
インターネットを中心にICTを専門とする。観啓学術情報センター長。

上杉 裕子 教授 UESUGI Yuko 博士(学術) (英語)

英語をマスターするために必要なことは何でしょうか? 英語の4技能(読む力、聞く力、話す力、書く力)を高めることはとても大切です。しかし私は、それよりもまずは異なる言語を用いて、異なる意見や文化を理解しようとする積極的な姿勢(マインド)が大切だと考えます。観啓大学では、入学後半年間以上の4技能に加え、プレゼンテーションについても集中的に英語を学習するプログラムがあります。まさに英語漬けで、毎日英語のシャワーを浴びます。その後どんな科目でも英語で履修できる力とマインドが培われることをめざします。



Profile
専門は英米文学、英語教育学。高校・高専・大学で20年以上の教育歴。国際交流センター長。

山田 芳則 教授 YAMADA Yoshinori 博士(地球環境科学) (環境学)

気象や水象、地象に関する地球科学は、日々の生活や防災、地球環境問題などの背景となる非常に重要な分野です。一方、現在の社会では、膨大な量の各種データが蓄積されていますので、データサイエンスの学修も必須と言えます。地球上で生じている様々な現象の理解を通して、科学的に物事をみたり考えたりする力を涵養し、またデータサイエンスの知識・技術を身に付けることで、文系・理系を問わず社会において活躍できる場を広げることができるようになるでしょう。



Profile
地球環境科学博士。大雨や大雪をもたらす雲の研究が専門。

「ポート(port and hub:港)」による学生支援

本学では、学生40人(1学年10人×4学年)程度を専門分野の異なる教員2人が担任する「ポート」を設け、学生支援の柱とします。教員2人の研究室と学生が滞在する部屋を隣接配置することで、学生が日常的に教員とコミュニケーションをとり、学修計画の立て方や履修科目の選択、学修方法についての指導・助言を受けやすい環境を整えています。



知識・スキルの

「修得」

アクティブ・ラーニング

EIKEI standard

すべての科目と授業

1クラス25人の少人数教育

より学生一人ひとりに応じた指導を行うため、原則として1クラス25人程度で授業を実施します。
※英語集中プログラムは1クラス16人程度

SDGsを意識したリベラルアーツ



SDGs (SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS) は国連サミットで採択された、持続可能な開発のための国際目標です。本学では、実社会における課題に対して、持続可能な世界の実現に貢献することを念頭に、SDGsの17のゴールの方向を見据えながら、統合的な解決策の立案に寄与する人材の育成をめざしています。そのため、社会課題を見る際の視点を整理するに当たっては、SDGsの17のゴールを国連が分類した5つのP (Peace 平和、Partnership 共創、People 人間、Prosperity 繁栄、Planet 地球) を軸として設定し、学生は様々な学問分野を横断的に学修します。



学びの軸とする5つのP

基盤科目

5Pのうち、People (人間)、Prosperity (繁栄)、Planet (地球) はより具体的な課題領域を示しているのに対して、Peace (平和) はそれらを可能にするための基盤であり、Partnership (共創) はすべての目標に共通する方法論として位置づけられます。
Peace (平和) とPartnership (共創) に分類されるリベラルアーツ科目については、学生全員が共通して履修できます。

5P	修得する知識
Peace 平和	平和な社会の構築や多様な主体との協働など、課題解決を行う上での思考・判断の基盤となる知識を修得 (人) ●心理学概論 ●宗教と歴史 ●平和論 (社会) ●経営学概論 ●国際協力・安全保障概論 ●社会学概論 (自然) ●生命倫理学概論 ●人工知能概論 ●数学的思考法
Partnership 共創	

発展科目

学生自身が具体的に課題設定を行うための補助として、発展科目には「ウィンドウ」が設定されています。「基盤科目」を修了した学生は、自らの興味関心に沿ったウィンドウを中心に、一定の視座に基づき、ソーシャルシステムデザインに必要な知識とコンピテンシーを効果的に身につけます。また、学生の興味関心やプロジェクトの進行状況に応じて、他のウィンドウにかかわる教科も履修することができます。

5P	ウィンドウ	修得する知識	主な学問領域
People 人間	アイデンティティデザイン	多文化共生社会で人々の多様性を尊重する仕組みなど、社会課題に関する知識を修得 (人) ●哲学・倫理学 ●多文化共生社会論 ●メディア論 ●日本文化論 ●異文化論 ●科学哲学概論 (社会) ●公共経営論 ●地域協働論 (自然) ●認知科学概論 ●ヘルスケアサービス論	人文学関係
Prosperity 繁栄	ビジネスデザイン	グローバル化する経済・社会の仕組みや産業、技術発展などに関する知識を修得 (人) ●公共芸術論 ●社会心理学概論 (社会) ●経営戦略・組織論 ●マーケティング論 ●ファイナンス論 ●社会起業家論 ●社会経済システム論 ●産業・ビジネスモデル論 (自然) ●バイオテクノロジー論 ●科学技術史	経済学関係
Planet 地球	エコシステムデザイン	自然と共存しながら発展するための環境保全や生物多様性などに関する知識を修得 (人) ●文化人類学概論 ●フィールドワーク研究 (社会) ●環境経済学 ●地域活性論 ●開発経済学 (自然) ●自然災害論 ●都市環境論 ●環境工学 ●生物多様性論 ●地球環境論 ●生態学	理学関係 (環境学部分)

でアクティブ・ラーニングを行います。

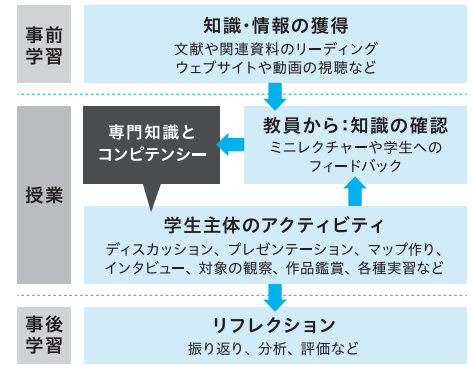
主体的に学べる100分授業

授業時間のうち教員による一方的な講義は最大で20%程度を目安とします。学生同士の対話やグループディスカッション、質疑応答の時間を多く確保します。

2コマ連続授業だから集中して取り組める

1コマ100分の授業を2コマ連続で行うことで、同時期に並行して履修する科目が少なくなり、学生はひとつの授業に集中して取り組むことができます。

アクティブ・ラーニング



デジタルリテラシーや思考力の向上

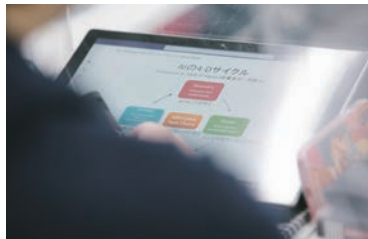
IoTやAIなどが注目されるなか、本学でも、ICTおよびデータサイエンス、ロジカルシンキング、デザイン思考、システム思考など、今後の社会で必要とされるスキルの修得を目指します。

ICT・データサイエンス

学生はICTやプログラミングの基礎や活用方法などを理解し、課題解決や事業立案などのツールとしてICTを活用することができるICTリテラシーと、データを収集・分析して判断材料とする手法を修得し、実社会の課題に対し統合的な解決策を戦略的に立案する戦略性の育成を図ります。また、ICTを活用する際に重要となる情報倫理も複数の学習機会が設けられています。

【例】

Webサイトやアプリの作成技法、分析結果を効果的に活用するための技法、IoTやAI、データサイエンスを活用して実社会の課題を解決する手法など



思考系

学生は、課題解決に必要な、基本的な思考のスキルである論理的思考力を養うとともに、実社会における課題解決プロセスで必要となるプロジェクトを進める手法や議論を促進し合意形成を図る方法などのスキルを修得し、実社会の課題に対し統合的な解決策を戦略的に立案する戦略性の育成を図ります。

【例】

ロジカルシンキング、デザイン思考・システム思考、プロジェクトマネジメント、ファシリテーションなど



英語のシャワーに触れる日常

本学の学生は、外国語能力を前提に、コミュニケーション力を駆使して異なる文化・価値観などを有する人と協働し、グローバルに活躍できる力を養うため、実践的な英語を学修します。学生は英語で授業を受けられるレベルの実践的な英語力の修得を目指すとともに、本学は海外から積極的に留学生を受け入れ、キャンパスのグローバル化を推進します。

■ 半年間の英語集中プログラム

学生は1年次の3学期以降、リベラルアーツ科目などの授業を英語で受けられるレベルに達するよう、1年次の1学期と2学期の半年間で「Intensive English Program (英語集中プログラム)」を受講します。

少人数・習熟度別(初級・中級・上級)にクラスを編成し、英語のみを使用することで、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング、プレゼンテーション力を鍛えます。

■ 62単位以上は英語で授業履修

卒業に必要な124単位のうち、62単位以上は英語での授業履修が義務となります。

一部の科目(留学生を対象とした日本語集中プログラムなど)を除き、同一科目が英語と日本語両方で開講されるため、学生は全ての授業を英語により履修し卒業することができます。

■ 4人に1人が留学生

本学は、1学年100人のうちの20人程度の留学生に加え、交換留学などにより滞在する海外大学の学生を含めると4人に1人は外国人学生となるよう、キャンパスのグローバル化を推進します。

学生は様々な文化的背景、多様な価値観を持つ留学生と日頃から英語でコミュニケーションを行うことで、多様性を尊重する国際感覚を身につけます。

学内・学外での

「実践」

多様な主体をつなぐ
プラットフォーム

EIKEI style

広島県の街全体をキャンパス 実践的な教育を展開し

学びの場は“オール広島県”

実社会で生じている課題を教育に積極的に取り入れていけるよう、企業やNPO、国際機関、地方公共団体など学外の様々な主体と連携を行う「プラットフォーム」をオール広島県で構築します。

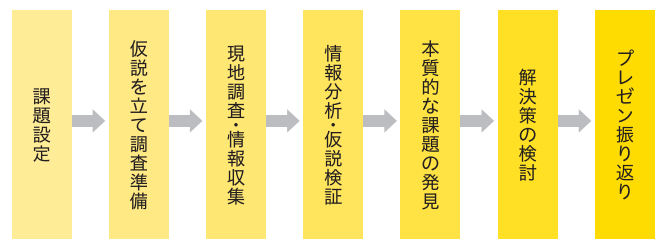
実社会のリアルな課題に挑む課題解決演習(PBL)



本学では、課題解決演習(PBL)をカリキュラムに導入します。1年次は「課題解決入門」を全員必修とし、学生は自らに足りない知識やスキルを自覚します。

2・3年次では、企業などから提供された課題の原因を探究し、解決策の提案までを行う演習に複数回取り組み、課題発見・解決力や他者と協働する力、やり抜く力などを養います。

課題解決演習(PBL)の流れ



卒業プロジェクト

最終年次の1年間で、学生が自ら解決すべき課題を設定して、課題の原因究明から解決策の提案までを行います。

個別の卒業プロジェクトテーマに関する課題研究をゼミ形式で進め、中間・最終の2度の報告会を行います。報告会には、外部評価者として企業・行政などのステークホルダーを招き、それぞれの課題研究に対して、新規性、実現可能性などの観点からフィードバックをもらいます。学生はそれを踏まえて報告書をまとめ、公開プレゼンテーションの場で成果を発表します。

卒業プロジェクト(全体概要)

